

農村計画学会 2022 年度春期大会学術研究発表会（ポスターセッション）プログラム

学術研究委員会

発表者の方へ：ポスター報告は1セッション当たり1時間です。ポスター1題あたり12分（報告8分，質疑4分）とし，残りは全体討議とします。発表者はポスターの発表を行い，質疑応答に対応してください。

A. 営農と農地・緑地（9:40～10:40）

コーディネーター 新保 奈穂美（兵庫県立大学）

a1. 営農型太陽光発電施設に対する景観評価特性の解明

○高橋 武（山形大学），栗原 良樹

a2. 環境保全型農業が生産者と消費者の自然の関係価値に及ぼす影響

—福井県今立郡池田町での「ゆうきげんき正直農業」の取り組みを対象にして—

○齋藤 智美（東京大学），吉田 知樹，田嶋 結乃，影山 舜，橋本 禅

a3. 東京 23 区における屋上菜園の活動実態と社会的機能に関する研究

○陳 雅（早稲田大学），野津 喬

a4. 青森県弘前市郊外住宅地における野菜等の庭先栽培状況

○藤崎 浩幸（弘前大学）

B. 交流と人口減少対策（9:40～10:40）

コーディネーター 田村 孝浩（宇都宮大学）

b1. 戦後日本の国土計画における地方への人口移動促進言説の変遷の分析

○伊藤 将人（一橋大学）

b2. 来訪者の”ロコミ”からみた農村ツーリズムの魅力と課題

—事業導入後30年が経過した群馬県みなかみ町「たくみの里」を事例として—

○戸倉 季紀（東京農工大学），栗原 良樹，中島 正裕

b3. 山形県の地域おこし協力隊における倍率・途中退任率・定住率の規定要因

○宮崎 美春（山形大学），栗原 良樹

b4. 自転車利用者を想定したまちあるきマップの改善提案

—茨城県つくば市栄地区を対象として—

○田中 大輔（筑波大学），雨宮 護

C. 防災と暮らし (10:50~11:50)

コーディネーター 内川 義行 (信州大学)

- c1. 災害復興プロセスに影響する社会関係資本
—地域内の安心と地域外への信頼—
○秋吉 恵 (立命館大学)

- c2. ため池災害における地域住民の避難意図形成の要因分析
—岡山県浅口市鴨方町六条院中地区を事例に—
○高橋 諄 (東京農工大学), 廣瀬 裕一, 中島 正裕

- c3. 集まって暮らすために樹を植え囲うという計画思想について
○大澤 啓志 (日本大学)

- c4. 中山間地域における交通サービスの住民参加による持続可能な運営に関する研究
—京都府相楽郡南山城村「村タク」を事例に—
○山本 朋佳 (徳島大学), 田口 太郎

注：○印は、発表者を意味します。